

## 子供を大切にせよ

青山女學院教頭 塚本 はま子

私は幼稚園や小學校の教育には誠に知識の少ない者でございますが、只澤山の子供がありますので、幼稚園教育には餘程興味を持つて居るつもりでございます。私のもちました六人の子供は皆幼稚園のお世話になりました、今日では一番大きいのは二十九歳にもなり、一番小さいのも中學の四年でありますので、幼稚園時代とは随分年限は隔たつて居りますが、やはり教育者のはしくれである私は常に幼稚なる兒童の保護や保育には多少注意も致し、又いくらか考へても居るのでございます。

題目は「子供を大切にせよ」と致して置きました。が、その大切と云ふ意味はどんな事かと申しますと例へば吾々人間は皆各自が屬する社會が進歩發展する事を望んで居ります、恐らく何人もこの一事に反對する人はない事だらうと存じます。是を語を換へて言へば文明進歩の慾望とでも申しませうか、何人も皆この社會が進歩する爲に一生懸命に働くのであ

ります。然らば吾々は社會の如何なる方面に努力する事が、社會進歩の爲に最も必要な事かと考へますと勿論道路を改修して車馬の往來を便にし、交通機關を完備して日常生活を利する事も、又市街の外觀を善美にする事も必要ではありませう。併し是等の事業を實行して立派な建築物や、美しい道路を造り、又これをよく維持して行くは皆人間であります、従つて何よりも先づ立派な人を育成すると言ふ事が根本ではないかと信じます。然らば其人間を立派に仕上げるには如何にすればよろしいかが餘程緊要な問題だと存じます、之を一言にして言へば、兒童を立派に教育し且つ養護する事であります。若し現在の兒童に立派な教育や養護を受けしめないとするれば決して次代の社會を、より進歩せしむる事は不可能であります。彼のビートル大帝が帝位につかれた時、其政策として先づ其都を立派にせんと力められ又世界に誇るに足る高等な教育を盛にしやうと力を注いで

都市改良や大學建設をせられました、道路街頭の美、貴族教育の獎勵は誠によい事でありましたが、國民全般の教育殊に幼兒小兒の教育に注意しなかつた結果は今日の露國を見れば實に明瞭であるのです、現在あの慘憺たる有様は如何ですか、實に上すべりの教育程危険な物はないのであります。如斯考へて來ますれば、社會の改良も國家の繁榮も要は兒童を立派に教育すると言ふ一事に歸著します。尤も自分の子供を立派に教育せねばならないといふことは、何も特に言新らしく申さずとも、明白の事であつて、又事實親御達が子どもの教育に心配し努力してをられる事は、昨今の中學校、女學校等の入學難に就きまして、その親達がどうかして是非入學させたいと夢中になつて居られる其の目、其の顔付を見ます時、私は實に其心根を推して涙がこぼれる程でありますから、最早此以上兒童の教育が大切だ、兒童を大切にせよと申し上げる必要はないことのやうに存じます、併しこゝに注意すべきことは子供を大切にすることいふ事は、子供を手の内の玉とせよと云ふ意味では決してないのであつて、子供の能力を充分に發達させ發展せしめて有爲有能なる人にせよといふ

事でありませう。かゝる事は子供を持つ親達のどなたもが望む所でありませうが、實際世間で見るところではこれから發達する子どもの天然自然の能力を大人が却つて妨害し阻止する場合が決して少くはないのであります。是れは一つの實際話でありますが、十五六年前のことですが、或貴族の娘さんである小學校の尋常三年生で十歳位のかたがありました、誠に愛らしく又數學や國語のやうな學科もよく出來たのでしたが、手先は餘程無器用で技能的の學科は全く不出來でした。この方が困つた事には學校で皆のやうにお辨當の御飯を自身で戴く事すらも出來なかつたので、食事時間になるとお附人が來て食事をさせるのであつたのです。然るに學校の方では不都合だとこれを止めて見ました、それから仕方がなくて小さいお握りを毎日持つて通つたと申します。そこが何故にこのお姫様は十歳にもなつて獨りで食事をすることが出來ないほど無器用かといふ事を調べました所が、このお姫様には上のお子が四人もあつたが何れも夭折してしまつた爲、この子一人は如何にかして育てたいといふ御兩親の考へで家庭教師一人、看護婦一人、女中三人を付けて置きました。唯一人

の子供に數人の人々が附き添うてゐる爲、そのお姫様は段々生長して自分で手足を動かすやうになつた時皆が抱きづめにしてゐたのは勿論一寸ガラ／＼でも取らうとすれば、このガラ／＼でございますか、ハイガラ／＼と云ふやうに争つてお附人たちはすぐ玩具を取つて振つて見せ少しもお姫様の自由に何かをさせなかつた爲、這ふ事も動く事も不自由で、遂には自ら食事をする事すら出来なくなつたこの事です。自分の手足を充分に心のまゝに活動させる事に依つて自然に何でも出来るやうな即一人前の人間となるものであります。従つて皆様の御家庭に於ても「それはお婆さんが取つて上よう」とか「帯はお母さんが結んでやる」「髪は姉さんが」と言ふ風にしては決して子供を大切にする所以とはならないのであります。一人前の働きの出来るものをわざ／＼防げる事になるのであります。自由に自ら活かしてこそ、その能力を充分に發達させ發揮させることになるのであるこれを自營とか自治とか申すのでございませう。無論その爲めに親はその設備その工夫が入用です。帽子掛も下駄箱も兒童自身で用ひ得る様に設備してやる事が其自營心養成の第一歩になるのであります。

す。かゝる方面に苦心を致すことが私の申す子供を大切にするといふ意味であります。

次に申上たい事は幼い時から善惡を考へさせて、自發的に善惡の判斷や選擇を誤らない風を養成したい事でありませう。私が或時旅行中の事、列車の一室に一人の母親と五歳位と、七歳位の子供との三人連の客を見受けた事がありました。其時兄なる子供が弟の玩具を取り上げた爲弟の方が泣き出して騒いで居ました。其母なる人が兄の方の子供に『そんな事をするよ向ふのお婆様が笑つて居ますよ』と言つて居ました。此母の言葉は當を得て居るでせうか、善惡の標準はかく人の見る見ないによつて決するものでせうか。人様が笑ふと笑はざるによつて其行爲の正否善惡を決定する事が出来るでせうか。善惡良否は人の在否に關せず善は善なるが故に實行し、惡は惡なるが故に止めると言ふのでなくてはならぬ。先生がゐるから警官が居るからとそれを行爲の標準の第一にすべきものではないでせう。又勉強をするにしても先生が宿題を出して呉れなかつたから私はこんなことは知らないといふ様に何によらず人を宛にして定まるものではない、これは根本から考

へて戴いて、子供自ら善い事か悪い事か判断を誤らさないやう自律の習慣を養成することは極めて大切なことであります。

次は子供の研究心に就いてであります。

子供は實に仕事に熱心なもので、殊に動植物等の自然物に直接觸れます時には多大の趣味と研究心を動かします。大人ならば専門的な學者以外誰も願みない様な事柄でも、小兒は好んで研究しようとするです。例へば蠅とか、蟻とかの如く日常彼等の生活に縁近い者には深い注意を持つて研究せんとする心があります。其の尊い研究心を妨げないで導き進める事は、實に頗る彼等の非常なる進歩と自修自得の習慣を形成する因となるのだらうと存じます。私が以前静岡に居た時のことですが、その頃尋常六年生位になる子どもと記憶しますが、或日お庭の縁側に居ますと、あの地方には色々の蟻が居りますが、その蟻をしきりに追つかけてりして遊んで居ました、其時私が蟻の種類を集めて見たらば面白いでせうと申しましたら、その後その子供は一生懸命に僅か二十坪程の庭の中から二十八種ほどの蟻の標本を造り、この蟻は喧嘩するとか、しないとか、この蟻

はさすとかささんとか云ふ點迄調べて私を實に驚かしたことがあります。是も私の一言が子供に研究の動機を興へたと言へるだらうと存じます。又こんな話もございます。ある日夕食後私が庭で子どもと色々自然界の話をして居りますと、其子供は庭の松の木を見てこの松の木はどうして生へたかと聞きました、そこで私はそれはもつと大きな松の木の實が地に落ちて生へたのですと申しますと、其大きな松の木はどうして生へたかと、又問ひますからそれはもつと大きな松の木の實から生へたのでせうと答へましたが、その大きな松の木はどうして生へたかといふやうに次第に問ひつめられて大變に困らされた事がありました。とうとう終りにそれは母さまには分らないから坊やが大きくなつて學問して研究するのさと申しました。然しこんな時には多くは「うるさい事だ」などと叱つて研究心を阻止する場合があります。こんな時には、お母さんは判らんから大きくなつたら研究してお母さんに教へてください。と云ふやうな返事をして子供の研究心を益々向上させたらよからうと存じます。

更に親が注意すべきは子供の行爲を尊重するといふ事でありませぬ。子供が著物を汚しながら、地面を掘り返してお池をこしらへたり泥のあべ川を作つたりして居るのを大人から見れば實につまらない事である、所謂いたづらと思はれますが、このつまらない事が、子供の全生活であるといふ事を知らなければなりません。唯頭からくだらない事ばかりと叱りつけるやうなことのいけない事は勿論一步進んで其仕事を尊重してやらなければならぬと思ひます。然るに多くのお母さん達はお八つをあげるとかおいもがふかせたとかいふやうな事でその熱心な研究や大切な仕事（小兒の爲には）をやめさせたり妨げたりする事が少くないのは甚だよくない事です。

幼いときから社交性を養ふ必要があります。

赤坊が泣き出した時にでも、誰れか人がおゝよしよしと言へば赤坊ですら泣き止めるのが通例であります。これを見ても人間には生れながらに社交性といふものがある事が判ります。又獨ものゝお婆さんでもよく猫を抱いて咄しをしてゐます。是も社交性の本性を表してゐるものだと思います。我國人は元來社交は不特意で拙劣であります。婦人に於て特に

然りだと言へませう、これは今迄女子が社會から冷遇されて居た事に依るだらうと存じます。「物言へば唇寒し秋の風」と昔から申し、我國の女子は由來引込勝で、社交が圓満でない、少年時代から社交性を養ふと言ふ事は極めて肝要な事であると思ひます。

日本人は知人に對してはあく迄親切であるが、知らない人に對しては極めて無關心である、電車の内でもよく經驗する事でありませぬが、若し知人でもゐると如何に込合つてゐても、無理に、狭い間へ坐らせたりするが、知らない人だと自分の前に老人が重い荷物を持つて立つて居ても平氣であるのが通例であります。打算的だと申しませうか兎に角氣持の悪い風俗であります、どうか我々は人の喜びを以て自分の喜とすると言ふ麗しい社交性を養ひたいと存じます。又子供が机の角で頭を打つた場合多くの親達はこの角が打つたか、角が悪い机が悪いと言つて打返すのが常でありますが、果して机の角が悪かつたでせうか、この方法は徒に復仇の心を教へる事になるのではないでせうか、かゝる時にはおゝ坊やもいたかつたらうが机も痛かつたに違ひないと言つて他愛的に取扱ふ方がよくはないかと存じます。要するに

他愛を基礎とする社交性を幼い時から養ふ事が餘程必要な事柄だと思ひます。

最後に青年を大切にせよと申したいのであります。幼稚園、小學校、中學校の二三年位迄は誰もよく子供を愛するものですが、中學校の三四年以上になると餘り注意をしなくなりますが是は非常に間違つた事であつて、この青年期になると彼等も性質が次第に變化して來る。親に頭を撫でられただけでは満足しないで他の愛に入らんとする傾向を持つて來ます、この時期は深い注意を以てその朋友の愛のよからぬものに捕へられないやうにしなければならぬのであります。其時代の青年男女の心理狀態として、其交はる周圍の人と共々に行動するものでありますから、常に自分の子のみ獨りよく教育しようとしてもとても出來ませんから、其友達と一緒にして教育する即ちその子どもの居る社會をよくするやうに注意せねばなりません。いひ直せば子どもはどんな友達と何をして遊ぶかを親が明瞭に知らなければならぬのです知つて若し教育上よろしからぬ場所にでも遊ぶ傾があれば子どもとその友達仲間とを一緒に健全な遊び場に移す工夫をするので例へば友達の間違ひも

一緒に拵へてさあ郊外においでとか友達の間違ひも時には洗濯して上るからおいでといふやうにすることが最も緊要なことで、青年になつたからとて急に放任するが如きは大變に間違つた仕打であると思ひます。

愈々最後に御婦人方に御注文致したい事がございます。世の中が漸次多忙になつてきて、子供の身上についても色々計畫を立てて教育せねばならぬいし、其他洗濯、食事、裁縫と婦人の任務は日一日と多忙となり、殆ど讀書の暇さへ容易に見出し難い時代となつて參りました、こゝに於て、吾人婦人は如何なる工夫かに依つて餘裕を作りたいものだと思ひます。それには唯一に衣服の方に手の入らない工夫をするより外に道はないと考へます。私は綿入といふものを廢し裕を冬から著て居りますが甚手数が少くて便利です衣服に手を入れるのが何よりの敵だと思つて、其時間を削ぎ、之を利用して讀書や子供のことを考へるやうにしたいと思ひます。限りある時間内に限りなき雜務を處理する主婦としてはかゝる方法によつて、最愛なる子供の爲めに教育を進めて行かれることを切に願ひしてこの講演を終ります。